

松山棟庵 まつやまとうあん 醫家。天保十年紀伊國那賀郡荒川庄生れ、大正八年十一月十一日歿（八二—一九一九）。初名勤、幼名健藏。號尊生舎。慶應義塾で英學を修めた。明治四年大學東校出仕、中助教、六年慶應義塾醫學部所校長。十四年高木兼寛等と成醫會を興し、有志共々東京市病院創設に盡力、醫學教育の留した。うち松山病院を（開業。その譯書、フリント著『空位扶助新論』全二冊（慶應四年八月樓霞堂藏版）は、英文醫書翻譯の嚆矢といはる。

『松山棟庵先生傳』（鈴木要吉編、昭和十八年十一月十一日松山病院）

が
の。

